

# 雑がみ選別センター運転業務 入札説明書 別記3

## 雑がみ選別センター運転業務 落札者決定基準

### 1 総則

落札者決定基準は、札幌市環境局環境事業部が雑がみ選別センター運転業務の総合評価一般競争入札を実施するにあたり、落札者を決定する方法及び基準を示すものである。

### 2 総合評価の方法

#### (1) 価格評価

入札参加者が提出する入札書に記載された入札価格（以下「入札書記載金額」という。）から価格点を算出する。

$$\text{価格点} = (\text{基準価格} / \text{入札書記載金額}) \times 100$$

（小数点以下第2位を四捨五入し、小数第1位の数値とする。）

なお、基準価格未満の入札書記載金額にあつては基準価格としたうえで、価格点を5%減点する。

基準価格は、低入札価格調査運用要領4条に定める調査基準価格とし、調査基準価格の算定は同要領同条第1項第2号によるものとする。

#### (2) 技術評価

入札参加者の技術提案書（提案様式による）に記載された内容を、別表1「評価項目及び評価内容」に示す評価の視点から評価項目ごとに評価点を付け、評価点の合計を技術点とする。

$$\text{技術点} = \Sigma (\text{各項目の評価点})$$

なお、評価項目ごとの評価方法は、別表2「評価項目及び評価方法」による。

#### (3) 総合評価点

入札参加者の価格点及び技術点から総合評価点を算出する。

$$\text{総合評価点} = (\text{価格点}) \times 0.4 + (\text{技術点}) \times 0.6$$

（小数点以下第2位を四捨五入し、小数第1位の数値とする。）

### 3 落札者の決定

入札参加者の中から最も高い総合評価点を獲得した者を落札者として決定する。なお、総合評価点の最も高い提案を提出した者が2者以上いる場合、当該入札者にくじを引かせて落札者を決定する。当該者のうちくじを引かない者があるときは、当該入札事務に関係のない市の職員が代わりにくじを引き、落札者を決定する。

### 4 低入札価格調査

入札書記載金額が調査基準価格を下回る場合、低入札価格調査運用要領第7条に基づき、当該入札者に対して低入札価格調査を行う。

別表1 「評価項目及び評価内容」

【雑がみ選別センター運転業務】

評価項目	評価の視点	評価内容	配点		
業務実績・従事者	1 財務状況の健全性	財務指標	自己資本比率	50	
			流動比率		
			固定比率		
	2 業務実績	過去10年間の処理能力が20t/日以上資源物選別施設の運転実績及び施設規模	通算契約年数		
			最大の施設規模		
	3 業務責任者等の配置	業務責任者の直接的恒常的雇用関係及び実務経験	入札参加者との直接的恒常的雇用関係がある期間における、業務責任者としての経験年数(副責任者の経験でも責任者になれるが、副責任者の経験は評価しない)		
			業務副責任者の実務経験		業務責任者、業務副責任者としての経験年数(運転監視の経験でも副責任者になれるが、運転監視の経験は評価しない。また、業務副責任者を複数配置する場合は、最も経験年数の長い者を評価対象とする)
			業務副責任者の資格保有状況		破砕・リサイクル施設技術管理士の保有
	4 従事者の配置	業務従事予定者の資格保有状況、実務経験、雇用状況、直接的恒常的雇用関係	[収集資源物堆積・投入作業員]車両系建設機械運転技能講習修了者人数		
			[製品ペール運搬整理員]フォークリフト運転技能講習修了者人数		
次の講習修了等の配置人数 ・第一種または第二種電気工事士 ・危険物取扱者(甲種または乙種第4類)					
次の講習修了等の配置人数 ・酸素欠乏及び硫化水素危険作業主任者技能講習修了者 ・玉掛け技能講習修了者 ・ガス溶接技能講習修了者 ・アーク溶接特別安全教育修了者 ・有機溶剤作業主任者技能講習修了者 ・高所作業車運転技能講習修了者 ・クレーン運転特別教育修了者					
実務経験(1年以上) ※ 処理能力が20t/日以上資源選別施設の運転業務					
雇用状況(札幌市内)					
直接的恒常的雇用関係(3年以上)					
1 運転管理	業務内容・特徴・施設特性の把握と、安定的な運転確保のための「運転管理方法」、「故障時の対応」などについて、妥当性があり効果的な提案を評価する。	施設の安定的な運転管理について、次の点などを踏まえ提案すること。 ○施設の運転管理方法の概要 ※ 例)管理体制、指揮命令系統、人員配置、重機の配置、運転時間、年間スケジュール、運転方法、連絡体制、施設の管理者と連携すべき内容、運転状況の記録・分析・報告など ○設備の故障時の適切な対処方法、故障履歴の管理方法、処理施設の設備全般に対する技術的な知見の有無 ○その他	50		
		2 保安全管理		設備の保安全管理について、次の点などを踏まえ提案すること。 ○日常的な点検・保守・整備方法及びその記録管理の方法。また、整備計画において考慮すべき視点 ○老朽化が進む機器を維持するための保全対策に関し重視すべき視点と対策について ○その他	
		3 教育・研修等		安定的な施設の運用のために必要となる業務履行時、履行中の従事者に対する教育、研修、資格取得支援等の事業者が行う対応について、効果的な提案を評価する。 教育・研修、資格取得支援等について、次の項目を考慮して提案すること。 ① 履行開始前の業務知識・技術力の習得 ② 履行中の運転及び保守管理上の技術力の維持向上、ノウハウ伝達	
		4 リスク管理		業務履行中に想定されるリスクに関し、施設の安定稼働、従事者の安全確保のために必要となる事前の備え及びリスク発生時の対応の妥当性について評価する。 業務履行中に想定される①及び②のリスクに関する、それぞれの事前の備え及びリスク発生時の対応、施設の管理者と連携すべきことについて提案すること。 ① 非常時(火災、地震、停電) ② 新型コロナウイルス感染症等により多数の従事者が従事できなくなった場合	
		5 労働環境に対する配慮		業務従事者の適正な労働環境を確保するための取り組みが提案されているかを評価する。 業務従事者の適正な労働環境を確保するための取り組みについて、次の項目を考慮して提案すること。 ① 労働災害防止対策 ② 安全衛生管理 ③ 健康管理、ストレスチェック	
		6 業務引継		次期受託者への業務引継の実施方法により適切に業務を引き継ぎ、支障なく施設稼働を継続することが可能かどうか評価する。 次期受託者への実地を含む業務引継の実施方法(計画、内容)、引継資料で整理すべきことについて提案すること。	
		7 環境負荷低減		業務全般を通しての環境負荷低減の方策に関し具体性、実現性があるかどうか評価する。 業務全般を通して、設備・機器、建築設備、使用重機などの環境負荷の低減をどのように図るかについて提案すること。	
配点合計			100		

別表2 「評価項目及び評価方法」

【雑がみ選別センター運転業務】

評価項目	評価内容	提出様式	配点	評価方法	
業務実績・従事者	1 財務状況の健全性	自己資本比率	4	財務指標「自己資本比率」を評価	
			様式3-1	2	財務指標「流動比率」を評価
				2	財務指標「固定比率」を評価
	2 業務実績	通算契約年数	様式3-2	4	処理能力が20t/日以上の資源物選別施設の通算契約年数を評価
				3	処理能力が20t/日以上の資源物選別施設の運転実績のうち最大の施設規模を評価
	3 業務責任者等の配置	入札参加者との直接的恒常的雇用関係がある期間における、業務責任者としての経験年数(副責任者の経験でも責任者になれるが、副責任者の経験は評価しない)	様式3-3	5	入札参加者との直接的恒常的雇用関係がある期間における、業務責任者としての経験年数の長さに応じて評価
				3	業務責任者、業務副責任者としての経験年数の長さに応じて評価
				3	業務副責任者配置予定者の資格保有者の人数を評価
	4 従事者の配置	[収集資源物堆積・投入作業員]車両系建設機械運転技能講習修了者人数	様式3-4	4	従事予定者のうち、車両系建設機械運転技能講習修了者の人数に応じて評価
		[製品バール運搬整理員]フォークリフト運転技能講習修了者人数		4	従事予定者のうち、フォークリフト運転技能講習修了者の人数に応じて評価
次の講習修了等の配置人数 「第一種または第二種電気工事士」、「危険物取扱者(甲種または乙種第4類)」		2		従事予定者のうち、それぞれの資格を保有する人数に応じて評価	
次の講習修了等の配置人数 「酸素欠乏及び硫化水素危険作業主任者技能講習修了者」、「玉掛け技能講習修了者」、「ガス溶接技能講習修了者」、「アーク溶接特別安全教育修了者」、「有機溶剤作業主任者技能講習修了者」、「高所作業車運転技能講習修了者」、「クレーン運転特別教育修了者」		2		従事予定者のうち、それぞれの資格を保有する人数に応じて評価	
実務経験(1年以上) ※ 処理能力が20t/日以上の資源選別施設の運転業務		3		従事予定者の総数に占める、処理能力が20t/日以上の資源選別施設の運転業務の実務経験が1年以上の人数の割合を評価	
雇用状況(札幌市内)		4		従事予定者の総数に占める、札幌市内在住の人数の割合を評価	
直接的恒常的雇用関係(3年以上)		5		従事予定者の総数に占める、入札参加者と直接的恒常的雇用関係にある人数の割合を評価	
小計			50		
運転管理・維持管理	1 運転管理	施設の安定的な運転管理について、次の点などを踏まえ提案すること。 ○施設の運転管理方法の概要 ※例)管理体制、指揮命令系統、人員配置、重機の配置、運転時間、年間スケジュール、運転方法、連絡体制、施設の管理者と連携すべき内容、運転状況の記録・分析・報告など ○設備の故障時の適切な対処方法、故障履歴の管理方法、処理施設の設備全般に対する技術的な知見の有無 ○その他	様式4-1	9	業務内容・特徴・施設特性の把握と、安定的な運転確保のための「運転管理方法」、「故障時の対応」などについて、妥当性があり効果的な提案であるかを、4段階「優」「良」「可」「不可」で評価
	2 保安全管理	設備の保安全管理について、次の点などを踏まえ提案すること。 ○日常的な点検・保守・整備方法及びその記録管理の方法。また、整備計画において考慮すべき視点 ○老朽化が進む機器を維持するための保全対策に関し重視すべき視点と対策について ○その他	様式4-2	9	施設機能が低下せず長期的に正常な状態を維持するための保安全管理について、適切性があり効果的な提案であるかを、4段階「優」「良」「可」「不可」で評価
	3 教育・研修等	教育・研修、資格取得支援等について、次の項目を考慮して提案すること。 ○ 履行開始前の業務知識・技術力の習得 ○ 履行中の運転及び保守管理上の技術力の維持向上、ノウハウ伝達	様式4-3	6	安定的な施設の運用のために必要となる業務履行時、履行中の従事者に対する教育、研修、資格取得支援等の事業者が行う対応について、効果的な提案であるかを、4段階「優」「良」「可」「不可」で評価
	4 リスク管理	業務履行中に想定される○及び○のリスクに関する、それぞれの事前の備え及びリスク発生時の対応、施設の管理者と連携すべきことについて提案すること。 ○ 非常時(火災、地震、停電) ○ 新型コロナウイルス感染症等により多数の従事者が従事できなくなった場合	様式4-4	8	業務履行中に想定されるリスクに関し、施設の安定稼働、従事者の安全確保のために必要となる事前の備え及びリスク発生時の対応の妥当性があるかについて、4段階「優」「良」「可」「不可」で評価
	5 労働環境に対する配慮	業務従事者の適正な労働環境を確保するための取り組みについて、次の項目を考慮して提案すること。 ○ 労働災害防止対策 ○ 安全衛生管理 ○ 健康管理、ストレスチェック	様式4-5	6	業務従事者の適正な労働環境を確保するための取り組みが提案されているかを、4段階「優」「良」「可」「不可」で評価
	6 業務引継	次期受託者への実地を含む業務引継の実施方法(計画、内容)、引継資料で整理すべきことについて提案すること。	様式4-6	8	次期受託者への業務引継の実施方法により適切に業務を引き継ぎ、支障なく施設稼働を継続することが可能かどうかを、4段階「優」「良」「可」「不可」で評価
	7 環境負荷低減	業務全般を通して、設備・機器、建築設備、使用重機などの環境負荷の低減をどのように図るかについて提案すること。	様式4-7	4	業務全般を通しての環境負荷低減の方策に関し具体性、実現性があるかどうかを4段階「優」「良」「可」「不可」で評価
小計			50		
配点合計			100		